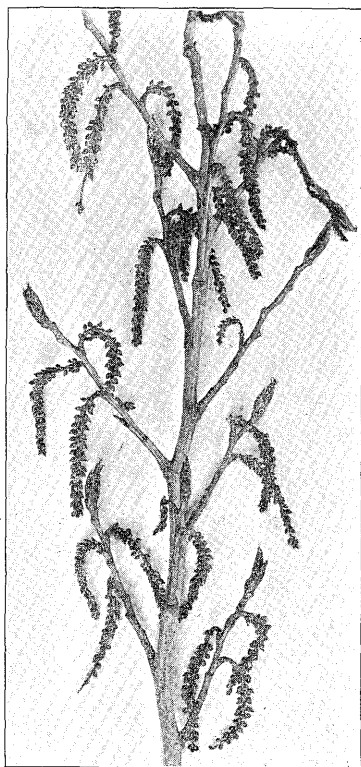


ハ材料ガ何處デデモ容易ニ得ラレルノデアルカラ、實驗材料トシテハ便利デアル。
 ツモ、先人ノ糟粕ヲ金科玉條トスル教科書ニハ單子葉植物バカリガ東針晶ノ所有者トシ
 擧ゲラレテ居ルガ、雙子葉植物ニモ在ル事ハ勿論デつりふねさうノ莖ヤ、あぢさいノ葉ナド
 ニモ良ク見ラレルモノデアル。然シ之等ノ場合ニハ切片ヲ作ル必要ガアルガ、ひんじもダノ
 上記ノモノナドデハ其儘見ラレル所ガ輕便デアルカラ 御賛成ノ方ハ御利用ヲ願ヒタイ。此
 外柳葉菜科ノ他ノ屬ニモ同様ナモノガ相當ニアル。（久内清孝）

○西洋はこやなぎノ花

西洋はこやなぎ (*Populus nigra* L. var. *italica* DUR.) ハ内地デ花ヲ見タ人ガ少イ様ニ
 聞イタ様ニ記憶スル。然ル處、本年四月中旬、横濱ノ徳永家次氏ハ同市磯子區市電車庫構内
 デ其果實ヲ有スル標本ヲ得テ余ニ示サレタ、夫レ
 ガ此寫眞デアル。其後余ハ同市内ノ各處ニ於ケル
 多クノ個體ニ於テ、マタ東京市大森區ノ一樹ニ於
 テ同様果實ヲ有スル枝ヲ得タ。以上ノ事實ニ依
 リ、内地デモ樹齡十年位ノ木ニハ花ヲ著ケ其多ク
 ハ雌本デアル事ガ判明シタ。然シテ挿木デ増殖シ
 ツ、アル實情ニ鑑ミ内地ノ西洋はこやなぎハ多ク
 雌本デハナカラウカト考ヘタガ、理學博士小倉謙
 氏ハ余等ト前後シテ、東京帝國大學醫學部附屬病
 院耳鼻科病室ノ附近ニ於テ、雄本ヲ發見サレタカ
 ラ、日本ニハ ♀♂ 共存在スルコトガ判ツタ。小
 倉博士ハ雄花ヲ次ノ如ク觀察サレタ「雄花序は始
 め苞より出し時眞赤（これは葯が眞赤なるため）
 なる塊にて蟲癭か何かと思ひ居りしに段々伸び始
 めて花序たるを知りたる次第に候、葯は花粉の出
 る時まで眞赤」（通信ノ一節）



西洋はこやなぎノ雌本

マタ楊柳専門ノ東北帝大ノ木村有香學士ニ照會
 シタラ同氏ヨリ「仙臺地方ニ♀モ♂モ栽植シテイ
 マス、タマシ♀ハマレデス、樹姿コトナル爲遠望
 シテ♀カ合カワカリマス、只今開花(4月19日)シテ
 ハ居リマセンガモウソロソロ咲クデセウ尙小生神
 戸ニ於テモコノ植物ノ♀ヲミタコトヲ記憶シマス
 云々」ナル回答ニ接シタカラ日本ニハ兩方アル事
 ガ確實ニナツタ。然シ、余ハ果實ヲ見タ丈デ花ヲ觀察シ得ナカツタノハ残念デアル。果實ヲ
 有スル花穂ハ總テ綠色デ、其長サ約 3 cm. バカリデアツテ、附近ニ雄本ノ無い爲メカ多ク
 ハ稔熟スル能ハザルモノ、如ク、花序ノマ、脱落シテ居ルノガ多カツタ。

之ニ就テ面白イ事ハ米國ノモノハ重ニ雄本デアルト云フ事デアル。今手元ニアル米國出版ノ ARTHUR I. EMERSON ト云フ人ノ Our trees how to know them (1918) ト言フ者ナ本ヲ見タラ “It is an interesting fact that all of the Lombardy Poplar trees which have been grown by man have borne only pollen-bearing blossoms, so that the species has been reproduced by cuttings or suckers exclusively, no seed being possible under existing conditions” トアツタカラ、更ニ GRAY ノ Manual of Botany, ed. 5 ヲ見タラ之ニハ何ントモ書イテナカッタガ AL. REHDER ノ Manual of cultivated Trees and Shrubs (1927) ヲ見タ所 usually staminate (p. 91) ト書イテナツタ。

(久内清孝)

〇くりんさうノ帯化



昭和九年七月 木曾王瀧ヨリ奥ニ入ツテ瀬戸川御料地デくりんさう (*Primula japonica* A. GRAY) ノ帯化セルモノヲ植エテキルノヲ見タ故寫眞ヲカ、ゲル。(同行岡島吳郎君撮影) 故白井光太郎博士ノ「植物妖異考」ニハ攀枝植物トシテ *Primula veris*, *P. denticulata* ノ二種ノ同屬植物ガ舉ゲテアル。(堀 信二)

〇しろばなつゆくさ

しろばなつゆくさ (*Commelina communis* L. f. *albiflora* MAKINO) ハつゆくさノ白花品ニシテ原記載(本誌 VII, p. 4)ニハ Hab. Japan rare トノミアリテ特定ノ産地ガアゲテナイ。筆者ハ昭和8年8月茨城縣笠間町ノ畦畔デ之ヲ採

ツタ。而シテ腊葉中二三日内ニ次第ニ着色シテ來テ淡青色ニナツタ。水分ノ缺乏ニ基イテ色素ノ發現ガ促サレタモノデアラウカ。面白イ一例ダト思フ。(堀 信二)

〇しなのあきぎりノ花色

しなのあきぎり (*Salvia Koyamae* MAKINO 本誌 II, (1922) p. 23) ニツイテハ久内清孝氏ガ本誌 V.-9. ニ越中立山附近ニ多産スル事並ビニ日本アルプス系ノ山中ノ森林地點ニハ至ル處ニ自生シテキルデアラウト述ベラレタガ、越中デハ南方山地一帯ニハ至ル處生ジテキルノヲ見ル。原記載ニハ Flowers yellow トアルガ筆者ガ今迄見タモノハスベテ紫花ノモノデアツタ。あきぎり (*S. nipponica* MIQ.) おほあきぎり (*S. robusta* MAKINO) 等ニ於テ f. *lutea*, f. *purpurea* ガアル如ク、此ノしなのあきぎりニ於テモ同様黄色紫色ノ兩者ガ併存スルト考ヘラレル。(堀 信二)